

鬼

ふたなり
バトル!! ♀♀

CG集基本11枚全92枚



「カーラ」

雲海の底に生息する両性具有の巨人族。
詳細不明。
個体名：カーラ



『アイカ』

雲海の底に生息する両性具有の巨人族。
詳細不明。
個体名：アイカ



「ああら、あんたがアイカ？」

『ふん、随分と待たせやがって。や〜っとお出ましのようね、カーラ！そうよ、私がアイカ！今日、あんたをぶちのめす女よ』

「ふ〜ん。あんた、ふんぞり返っちゃってやけに自信满满じゃ〜ん？そんな貧相なおっぱい見せつけないでくれる〜？それにい〜、マジでウチに勝とうってのお？うふ♪そ・ん・な・のお〜、ムリムリい♪あんたみたいなのがこのカーラ様を気持ちよくできるのお？」

『くう〜！バカにしてくれちゃって！おっぱいだってこんなにグラマラスだっなのに貧相とは何よ！あんたホントに目ついてんの？それに、あんた最近、この辺りでバトルしまくって調子に乗ってくれちゃってるらしいじゃない。私を差し置いてそんな浮ついた愚行は同じ人間狩りとして見過ごせるわけがないわ！』

「あらあらあ～、勇ましいでちゅね～。でも、あんたは強情なだけのお子ちゃまみたいでちゅね～」

『はッ、バカにしやがってッ！あんたこそ豆粒みたいなミニサイズのおっぱい、恥ずかしげもなく押し付けてきてんじゃないわよ！』

「んん～？あんた今なんて言ったあ～？ウチは勝負にはこだわらないタイプだけどお、バカにされるのはやっぱりムカつく～。もしかしてあんた、このナイスバディな爆乳が見えないの～？」

『きゃはは！小さすぎて見えないわねッ！この快樂狂いのドスケベ女！覚悟してなさい！この私がすぐその生意気な口を黙らせてやるんだからッ！』

「ああら♪ゾクゾクしちゃう～！早速ウチのことを罵るなんて、アイカってばなかなかやるじゃなあい？ほらほら、その調子で、もおっとウチのこと気持ちよくしちゃってえ～♪」

『ふん！噂通りホント変態ねッ！お望み通りおちんぽも抜いてやるわよ！って、おおッ？！もう勃起させてるじゃないの！このメス豚野郎が！』

「ああんッ！アイカってば辛辣う♪でもお、ウチだって負けてないよ～？ほら、シコシコお♪アイカのおちんぽもすうぐ勃起させてあげちゃうんだからあ！」

『んおおッ！おちんぽッ、抜かれたらあ...ッ！おほッ、おおッ！カーラあッ！くそッ、負けてやれるかッ！』



「お子ちゃまな割には立派なおちんぽしてるじゃなあい？ちょっとシコシコしてあげただけでえ、すうぐデカチンに変身しちゃって♪これは期待できるかも～」

『うるさいッ！あんただってギンッギンに勃起してるくせに！カウパーまで垂らしちゃって情けないおちんぽね！』

「ああッ、おおッ！気持ちいいッ！もっと扱いてええッ！ああッ、おッ！」

『こいつう～ッ！涎まで垂らしてよがってんじゃねえか！くそっ、お望みならあんただけイかせてやるよッ！おらッ！』

「やあん、アイカってば乱暴♪でもお、ウチだけイくなんてフェアじゃないよねえ～？んおッ！こっちだって負けてられないわッ！ほおら、ウチの高速手コキで昇天しちゃいなさい！シコシコシコシコお！」

『おおおッ！おッ、おッ！おおおッ！カーラあッ！速ッ、なに、これええッ！くそおッ、こんな...ッ、負けられ...ないッ！』

「あらあ、自分から腰動かしちゃってるくせに情けないなあ！んッ、おおッ、でもおッ！ああッ、あんた結構ッ、やるじゃないッ！おおおッ！おッ！」

『カーラこそおッ！そのでかいだけのケツ振って下品に喘いでるじゃないッ！おおおッ！おッ！ああ〜ッ！くう、イかせてやるうッ！』

「おおッ！おッ！んおおお〜ッ！おちんぽおッ！おちんぽ気持ちいい〜ッ！！だめえッ！おおお、イクッ、イクイクイクッ！」

『イケッ！ほらあッ！んぐッ、おおおッ！だめえッ、おちんぽだめえッ！こんなの...ッ、私もッ、イクッ！イっちゃまううう〜ッ！！』



「んほおおおお〜ッ！」

『おおおおおおお～ッ！』

「はぁッ、はぁ...ッ！最ッ高お～♪おちんぽ...、おちんぽお...！はぁッ、はぁッ！びゅーびゅー出すのッ、んおッ、気持ちよすぎぃ...ッ！」

『ふひッ、はひィ...ッ！うぐうう、もしかして、同時にいった...ッ？！』

「はぁッ、仲良くいっちゃったみたいねえ～♪はぁッ、はぁッ！」

『はぁッ、はぁッ！同時なんて...そんなの...ッ、許さないッ！許さないからぁッ！』



「きゃぁぁッ？！ちょっ、痛ッ！いきなり何よお？！」

『油断してたわねえ？ふんっ、あんたも大したことないんじゃない？ほおら、無防備に大事なところ晒しちゃってさ！』

「あ、あんたもしかして...ッ！んおッ、おおッ、おおおッ？！」

『こおんな情けない格好させられて恥ずかしくないのお？それにい、ケツの穴触られて喘ぐなんてホントに変態じゃない！きゃはは！ほら、じっとしなッ！』

「ああああッ！うぐッ、それッ、痛いいいッ！痛ッ、ううッ！きゃああッ！」

『痛い？そりゃ当然よ！私に技決められて正気でいられるやつなんていないのよ！ほらほら！もっと喚きなさい！きゃはは！』

「うぐぐッ、んぐッ！はぁッ、はぁッ！やめてッ、おおッ、お尻ッ！お尻の穴だめええッ！ああああッ！」

『あらあら、さっきまで余裕ぶっこいてたメスはどこ行ったのかなぁ？これじゃあ完全にご主人様にひれ伏した奴隷じゃなあい？きゃはは！最高ッ！』



「やぁッ！おッ、おおおお～ッ！穴の入口ッ、おッ、弄っちゃだめええッ！許してッ、もう許してよおッ！」

『喚いてる割には気持ちよさそうじゃない。まだ余裕ってことはもっとキツく絞めてやらないとダメね。んっ、ほらよっと！』

「い、いぎいいいッ！やめッ、やめでえッ！うぐうう…ッ、離してッ、離せえッ！」

『あ～、いい気味ね！私の勝ちかしらあ？カーラってば結構期待してたのに、呆気ないわねえ～ッ♪ほらほら、アナルも弄ってやるから！さっさと負けちまいなッ！』

「おおおおッ！おッ、おッ！んほおおおッ！このウチがただの奴隷みたい
に犯されてる…ッ！なにこれ…ッ、支配されてるみたいで…ッ！お
おおおッ♪」

『負けろッ！ほら！敗北宣言しちゃえッ！気持ちいいの認めちゃえッ！』

「おおッ、こ、このウチが負け…？負け…ッ、負け…ッ！？うううッ！
おッ、おッ、ま、負けたいいい…ッ！お尻の穴ッ、穿られながら負けたいッ！
こんなの…ッ、おかしく…なるうううッ！」

『きゃはは！負けろッ！負けろおッ！アナルもお、ヒクヒクって私の人差し指と中指締め付けてきてるぞ？これだけでもうイきそうなんじゃないのお？』

「おおおッ、おッ！お尻ッ、お尻いいいッ！指が奥まで…ッ、来て…ッ！
おおおおおッ、イクッ、これッ、イクイクうううッ！」

『あーあ、アナル穿られただけでイっちゃうのお？きゃははッ！あんたって最ッ高にド変態ね！ほら！敏感尻穴に指突っ込まれてイケッ！おちんぽすらも弄ってもらえない哀れな肉便器め！きゃはは！』

「んおおおおおッ！おちんぽッ、おちんぽ気持ちよくしてよおお～ッ！
こんなのッ、惨めすぎるううッ！おおッ、おッ、おッ！アナルずぼずぼされて
イクなんてッ、あああああッ！」

『ホントに惨めねえ♪でも、あんたこんな風に扱われてるのを感じちゃってるの丸わかりよお？ほら、もっとアナルぢゅぽぢゅぽ弄ってあげるからイキなッ！おらあッ！』

「イグううッ！イグイグッ！！アナルッ、アナルだけでッ、おッ、おッ、おッ、ウチッ、マジでだめッ！おッ、おッ、イグウウ〜ッ！！」

『イケッ！情けない格好のままイケッ！』



「おほッ、おッ！んほおおおおおおお〜ッ！！！」

『きゃはは！ホントに出てる出てる♪アナルだけでイくなんてなっさけなあ〜い♪ほおら、触られてもいないおちんぽから勢いよく精液がびゅーって飛び出てるわよお？』

「おおおッ、おッ、おッ、おおおッ！ぎもちいいいい〜ッ！アナルッ、アナルぎもちいい...ッ！おおッ、おお〜ッ！」

『ホントお下品ねえ。アナル弄ってあげただけでビクビク身体震わせて
イっちゃってさあ…。これはもう勝負あったわね♪私の勝ちよお、お疲れ
様あ♪』

「ちょっと、はあッ、はあッ！ま、待ちなさいよおおッ！」

『はあ？何よ。そんなに気持ちよかった？アイカ様専用の肉便器に志願す
るう？』

「あら、あんたいい気になってるみたいだけどお～。ウチはまだまだやれ
るんだからねえッ！」

『なに言っちゃってるの？あんたさっき負けを認めたんでしょ？それとも
まだ無様に犯されたいのかしら？』



「あははあッ！違う違う！ウチは勝ち負けなんてどうだっていいのお～！
はあッ、はあッ！うふ♪さっきアイカが気持ちよくしてくれたお礼をして

あげようかなあってさあ！嬉しいでしょ～？それにい、ウチの性欲を舐めないで欲しいなあ♪あんなもんじゃまだまだ足りないんだからあ～！」

『ひぎいいいッ？！何よッ、やめてッ、んぐぐッ、離せえッ！もうこの勝負は終わりでしょッ？！』

「なあにバカなこと言ってるのお？終わりのわけないじゃなあ～い！ほら、ウチの勃起したでかちんぽがあんたの背中に当たってるのわかるでしょ～？もおっとウチのこと気持ちよくさせてよお～♪はあっ、はあっ」

『こ、こいつ...ッ！さっき出したばっかのはずなのにもう勃起してるの...！？なんて性欲ッ...！くっ、うぐぐぐッ！くっ、苦し...ッ！』

「あらあ、あんた見た目に反して意外と身体柔らかいんだあ～。じゃあ、もっとイけるわよね～？よいしょっとお！」

『うッ、うぎぎぎッ！やめッ、それ以上は...ッ、いぎいッ！あッ、脚があ...ッ！！』

「うふ、さすがにこれ以上はキツイかしらあ？うんうん、その悲痛な顔、滾っちゃうかもお～！おちんぽも犬みたいに丸出しにしちゃってマジで滑稽でウケる～♪」

『ううう...ッ！バカにしやがって～ッ！くううッ、こんな格好、したくてしてるわけじゃ...ッ！うぐぐッ！』

「はいはい♪ワンちゃんは大人しく飼い主の言うことを聞いていればいいの！情けないおちんぽもウチがちゃ～んと管理してあげるから安心してねえ？ほおら、ワンちゃんはじっとしてなさい？」



『くうう...ッ、屈辱...ッ！こんな...ッ、私がこんな風に押し潰されてるなんて...ッ！んッ、んおおッ！』

「あらあら、ワンちゃんってば発情期？放尿の体勢でおちんぽ勃起させるなんて最低〜♪獣のおちんぽがウチの手の中でぶるぶる暴れて大変よお！きゃはは！飼い主様がちゃんと鎮めてあげるから安心してねえ〜！」

『そんなの...いらないッ！離せえ...ッ！そ、そこ触るなああッ！おちんぽッ、おおッ、扱くなああッ！んおおッ！おおッ！』

「ワンちゃんってばウチの指先にカウパーまでつけちゃって！全く、臍がなってないなあ〜。ほら、そんなにピュッピュしたいならウチが扱いてあげるからジタバタしないの！」

『うぐう...ッ！あひ...ッ、はひい...ッ！くうう...ッ、ぐ、ぐるじい...ッ！もうやだあ...』

「もう、泣かないのお～！これぐらいで音を上げるなんて鍛え方が甘いんじゃないのお？ほらほら、まだまだいくわよ～！きゃはは！」

『うぎい...ッ！も、もう...ゆるじ...でえ...ッ！』

「ええ～、そんなに苦しい～？さっきまで“私の勝ち～”とか言ってたくせに！マジ惨めすぎて笑える～！ああんッ、そんな情けない姿見せつけられたらあ、ウチまで興奮してきちゃう～！」

『こ...ッの変態があッ！いぎッ、離せええッ！私のちんぽに触るんじゃない...ッ！うッ！おッ、おおおお～ッ！』

「あー、もしかしてシメられてるのにイっちゃいそうなお～？きゃはは！アイカのおちんぽイク準備してビクビクしてきてる～！イっちゃえ！ほら、見せて見せてッ、アイカワンちゃんの排泄シーン見せてえ！」

『やめ...ッ、ホントに...ッ、出るうううッ！おおおおッ、おッ！出るからあああッ！』

「白いおしっこ出るう～？！いいよお、出してえ！アイカのはしたないところ、さっきまでバカにしてたはずのウチに見せつけちゃえ～！きゃはは！」



『ひ、ひぎいいいいいい～ッ！！』

「きゃはは！マジでイってる～！精液びゅーびゅー出てるじゃん！そんなに良かったあ？ウケる～！」

『ひ...ッ、ひぎいッ！うッ、うおッ、おおッ！お...ッ！』

「白目剥いてイくななんて惨め～！きゃはは！あんなに痛がってたのにワンちゃんおちんぽ、イっちゃいまちたねえ～！おちんぽ気持ちいいの我慢出来なかったでちゆか～？」

『くっ、バカに...ッ、する...ッ、なあ...ッ！！はあッ、はあッ！くう...ッ！』

「悔しそうな顔～！これで引き分けだよね～？あんたも止めるにやめられないでしょ？まだまだやるわよお～！」

『こ、こいつう...ッ！』



「よいしょっとお〜♪ウチも勃起収まらないから仕方ないわよね〜？マンコも痛いちゃって困ってたのよお。ほらッ、あんたのちんぽをウチのナカに入れなさい！」

『は、はあッ？さっき出したばっかなんだから、そんなにすぐ勃起するわけないでしょ！あんたみたいな性欲魔人とは違うのよ！』

「ええ〜、それは困っちゃうなあ〜。それじゃあ〜、これならどう？ッ、おおおおお〜ッ！」

『んおッ、んおおお〜ッ！お、おいッ、やめ...ッ！おちんぽがビラビラに挟まれてえ...ッ！あひいいいッ！ううッ、卑怯すぎい...ッ！』

「おッ！トロトロになった、んおッ、ふわふわのマン肉にい、おおッ、おちんぽ押し潰されたらあ〜ッ、おッ、んッ、さすがにあんたのちっちゃい萎えチンも勃起しちゃうんじゃなあ〜い？んおッ、おッ、おッ！」

『くうッ！あひッ！くそおッ、この私がッ、おッ、こんなメス豚ごときにいいッ、悔しい...ッ、悔しいいいッ！ああッ、ああ〜ッ！』

「んおッ、あひッ！きゃはは！もう硬くなってきたあ〜！おッ、おッ！当たってるよおッ！あんたのちんぽッ！あひ...ッ、ひいんッ！アイカあッ、おッ、あんたも人のこと言えないぐらいエッチじゃないッ！おおッ！」

『だまれええッ！おッ！うぐう...ッ、この私があッ、やられっぱなしでいられるわけがッ、ないッ！おッ、おおおおッ！』

「ああッ、おッ、おおッ！これだけ勃起すれば十分よッ！おッ、ほら、入れるわよッ！んぐッ、じっとしてなさいッ！」

『ひぎいいい〜ッ！くう、勝手にちんぽどんどん入っていくう...ッ！おお...ッ、マンコお...ッ、おおおおッ！す、すごいよおお...ッ』

「おお...ッ、おほお...ッ！！半勃ちちんぽがあ...ッ、おおッ、ずぷずぷってえ...ッ、んッ、ウチのナカまで来てるう...ッ！ああッ、ナカで大きくなって...ッ、ひぎいいッ！ズンって押し上げてくるううッ！あひ...ッ、ひいいッ！これたまんないよお〜ッ！」

『おおお...ッ、おッ、おッ、おお...ッ！！気持ちいい...ッ！』



「あへええ〜ッ！あひッ、ひひッ！腰が勝手にい...ッ！」

『くうッ、気持ちよすぎて...ッ、んッ、このままじゃ...ッ、おおッ、また負けちまう...ッ！それだけは...ッ、嫌だあッ！んッ、おおッ、カーラあッ、んおッ、これでも食らえええッ！』

「ふんッ、無駄な足搔きは...、ツんぎいいいい？！お、おちんぽ扱くのは、おおッ、らめえええ〜ッ！アイカあッ、んひッ、あんたやるわねえ〜ッ！ああッ！あひいいッ！」

『んぐぐッ！負けるわけには...ッ、いかないッ！おちんぽハメられながら扱かれて感じちゃえッ！んおおッ、おッ！腰の動きッ、速いいッ！カーラ、あんたなんて体力してるの...ッ！うぐぐッ、おッ、おッ、おッ！』

「こ、これ、ちんぽとマンコお...ッ、両方感じちゃうからああッ！おッ、おほおおッ！これしゅご...ッ、おおおッ！」

『ちんぽ扱いてやるたびにいッ、んおッ、マンコ締め付けやがってええッ！ううう...ッ、マンコキツ...ッ！おおッ！らめえええッ！』

「ぎもちいいい〜ッ！おッ、おッ、おッ、おッ、おッ！おちんぽ奥までえッ、おッ、ぐるううう〜ッ！あへえッ、んぼおおッ！」

『カーラのやつ、完全に快楽堕ちしてる...ッ！ううう...ッ、獣みたいに喚きやがってえ...ッ！うぐうッ、このまま突いてやれば...ッ！おッ、おッ、おおッ、おおおおッ！』



「いッ、イグウウウウ〜ッ！んぼおおおおッ！あひい...ッ、はひ...ッ、おぼおおおおッ！」

『イケえッ、派手にイっちまええッ！はあッ、はあッ！うぐぐ...ッ、私はイってたまるかあああッ！』

「んぼお...ッ、おほおお...ッ！あひッ、ひひ...」

『な、ナカがうねって...ッ、おほ...ッ、おほおお...ッ！うぐぐぐッ、イくものかぁッ！うぐうッ！』

「はひ...、あひ...ッ！はぁッ、はぁッ！マジぎもちいいい...」

『はぁッ、はぁッ！か、勝った...？カーラだけをイかせてやったッ...！』

「ああ...、おちんぽお...。はぁッ、はぁッ！気持ちよかったあ〜...っ」



『きゃははッ！オラぁッ！あんたの番は終わりだぁッ！おい、惚けてないでこのアイカ様に跪けえッ！』

「あひいいいッ？！ちょ、いきなりウチの尻叩かないでよッ！痛いッ、痛いいいッ！アイカぁッ、乱暴しないでよぉッ！」

『す〜ぐイっちまう情けないメス豚には躰が必要だよなぁ？オラぁッ、豚は豚らしくブヒブヒ言って私を楽しませなさいよぉッ！』

「ぶ、ぶひいいッ！も、もしかして形勢逆転ってやつう～？！フガッ、フガッ！ご、ご主人様あッ！フガッ！」

『きゃははッ！ド変態のあんたには中々似合ってるじゃなあいッ！ほら、ずっと絶頂の余韻に浸ってる場合じゃないわよッ！もっとケツ上げなさい！私はさっき出してないんだからもう入れるわよッ！ん…ッ、んぐぐうッ！ああああ～ッ！』

「んおおおおおッ？！んぐ…ッ！あひ…ッ、あああ…」

『入れただけでビクビク跳ねやがって…ッ！ホントに淫乱…ッ！んッ、んぐぐうッ！キツツう…ッ！』

「あ…ッ、あひいい…ッ！叩かないでえ…ッ！痛…ッ！んあ”あ”ッ！」

『おい、いつ人語を話していいって言った？お前は豚なんだよッ！オラあッ！もっと叩かないとわからないのおッ？』

「ぶ、ぶひいいッ！フガッ！おおッ、おッ！フガッ！おおおおッ！ごめんなさいいッ！ごめんなしいい～ッ！」



『そう！それでいいんだよッ！オラッ！もっとマンコ締めなッ！あんたみたいな変態を、んおッ、このアイカ様の肉便器にしてやってること...ッ、ありがたく思うことねッ！おッ、おおッ！おおッ！』

「は、はいッ！ごめんなしゃいいッ！ブヒッ、ブヒィッ！ウチは...ッ、おおッ、アイカ様の肉便器でしゅううッ！もっとおッ、淫らでだらしない家畜を躡けてくだしゃいいッ！ブヒッ！フガフガッ！」

『おおッ！やけに素直じゃないか！それにどんどんケツが赤くなってきやがったなあ！やっぱり気持ちいいんだろおッ？！あんたは痛いのに感じちゃうマゾ豚だもんねえッ！こんな風に思いっきりケツ叩かれるのが快感なんだろおッ？！』

「ブ、ブヒィッ！フガッ！はあッ、はあッ！ああんッ！んほおッ、おほおおッ！はいッ、ウチは叩かれて感じる家畜でしゅう〜ッ！もっとおッ！もっとしてくだひゃいいッ！」

『そうかそうか！そんなに気持ちいいか！きゃはは！叩く度にマンコがキュ〜ッ、って私のおちんぽ締め付けてくるもんなぁッ！』

「くぅうッ、このカーラ様があッ、こんなメスにいッ、豚だと罵られ...ッ、性処理道具のように扱われている...ッ！フガフガッ！なんという屈辱うッ！フガッ！んおおおッ！」

『無理やり犯されてるくせに自分から腰ヘコヘコ動かしちゃって情けなあい！頭では悔しいって分かってるのに身体は正直だもんなぁッ！ほら、もうイク？イク？きゃはは！イきたいんでしょおッ？』

「ブヒィィッ！フガッ、フガァッ！」

『ほらっ、素直になっちまえよッ！イきたいんだろおッ？！』

「ブ、ブヒィィッ！イ、イかせてくだしゃいいいッ！んおおおッ！おほおッ、んッ、んッ！」

『はぁ〜い、じゅ〜う！』

「んッ、んおおおッ？！な、なに？！」

『カウントダウンだってばッ！これだから察しの悪い家畜はぁ...。ゼロって言うまでイクの禁止だから！それじゃぁ高速ピストン開始〜ッ！ふんッ、ふんッ！きゅ〜うッ！んおッ、おッ、はぁ〜ちッ！』

「おッ、おほおおおッ！ブヒィ、ブヒッ！これイクッ！イっちゃうからぁ〜ッ！もうだめえッ！んほおッ！おほッ、おほおんッ！」

『な〜なッ！ろお〜くッ！きゃはは！すごい締め付けッ！でもイクなよお？ちゃ〜んとゼロのときに最高に気持ちいいスパンキングもしてやるからな！』

「ひうううッ！フガッ、フガァッ！イグウッ、イグからぁ...ッ！おッ、おッ、おッ、おおおッ！おおんッ！」

『ごお〜、よお〜ん、さぁ〜んッ♪豚マンコがびっしょびしょに濡れてきたなぁッ！でもまだイクなよ？』

「ブヒィィイツ！もう...ッ、おおおッ！限界い...ッ、あひッ、あひいッ！
イかせてえええッ！」

『に～い！い～ち！きゃはは！ケツ上げちゃってるじゃん！そんなに叩か
れるのが楽しみ～？でもお、まだゼロじゃないわよお？おッ、おッ！』

「も、もうだめえッ！フガッ、フガァッ！イグ...、イグううう...っ」

『仕方ない豚ねえ～ッ！ほらッ、さっさとイきなッ！ふんッ、ふんッ！
おッ、おほッ！ゼロお～ッ！』



「ブ、ブヒィィィィィイツ！！」

『んほおおおおおッ！！』

「フガッ、フガ...ッ！ナカにい...ッ、いっぱい...、きてるう...ッ！ブ
ヒィッ！」

『おおおッ、おッ、おお...ッ！おほッ！出る出るう～ッ！ふうーッ、ふうーッ！』

「あへ...ッ、あへえ...！マジでヤバい...」

『ああ～ッ！すっげえ出しちまった...ッ。あんた最高の肉便器だわ...ッ！はあッ、はあッ！』

「はあッ、はあッ！もう...だめえ...っ」

『なに脱力しちゃってんのお？まだまだ私のターンなんだから気を抜いてんじゃないわよ！』



「おおおッ？！！」

『ふうッ、ふうーッ！あんたみたいなッ、んぶッ、貧弱な身体ならあッ、セックスした後でも担ぎ上げぐらいできるんだからなあッ！ふんッ！』

「うぐおッ！げほッ、げほッ！ぐっ、ぐるじいい...ッ！下ろしてえッ！の、喉が... あッ！げほッ！」

『ジタバタ暴れちゃって、そんなに下ろして欲しい？でもお、私の気分次第じゃ、下ろすってのはあ、あんたをこのまま床に叩きつけちゃうってことよ？そんなの、同族のあんたでもたまったもんじゃないわよねえ！きゃはは！それならこのまま苦しんでた方が身のためじゃなあい？』

「ひ、卑劣なことを...ッ！」

『あらら、怯えちゃったあ？まあ、あんたがこの担ぎ技を耐えきったところで最終的には投げ落されちゃうのは変わらないんだけどね～！ほらほら、どんどん首が絞まってくわよ？』

「んぐぐぐ...ッ！ゲホッ！息が...ッ！お、おい！ちんぽ...ッ、触るなあッ！おッ、おごおッ！」

『あーあ、すごい下品な声出しちゃってさ！もう降参？いくらあんたが底無しの性欲だからって、この鍛え上げられたアイカ様の身体には敵わないでしょ～？降参しちゃえば投げ落とすのだけは勘弁してあげてもいいわよお？』



「うぐッ、ぐううッ！ゲホッ、ゲホオッ！んぶう…ッ！んーッ！ゲホッ！」

『あら、首が絞まりすぎて降参の声も出せないのね！あのカーラが！きゃはは！抵抗する元気も無くなってきたみたいだし、このままおちんぽ扱きまくってイかせちゃおっかなあ〜？』

「うぶうッ、んぶぶうッ！んおッ、おぼッ、ぼおッ！おぼおッ！」

『痛い？苦しい？止めて欲しい？それとも気持ちいい？きゃはは！でもお、聞こえなあ〜い♪』

「うぼおッ、うぶうッ！ゲホッ、ゲホッ！んんーッ！んーッ！うぐうッ、ゲホッ！」

『おお？もうちんぽが張り詰めてきたぞ？まったく、首絞められながらおちんぽの無駄打ち射精準備してるだなんてとんだド変態ね！きゃはは！』

カーラのギンギンになったちんぽのカリ首にい、私の細い指の輪っか引っ掛けてえ、こんな風にシコシコしたらもうイっちゃうんじゃない？』

「んぐうッ！おぼッ、おッ、おおッ！うぼッ、うぼおおッ！おッ、おおッ！」

『ほらいけッ！連続でイかされちまえッ！なんの意味もない無駄打ち射精キメちまえ！きゃはは！あんた、私に攻められるのが快感になってきてるんだろッ？あんたは攻めるのも攻められるのも好きみたいだけど、私の性奴隷になっとけば絶対気持ちいいって！このアイカ様があんたに攻められる快感を教え込んでやるからさあッ！』

「んぶぶぶッ、うぶうッ！おほおおんッ！おほッ、おッ、おッ、おおッ！」

『気持ちよすぎて何も考えられないか？それとも自分が性奴隷にされちまった想像でもしてるのかあ？きゃはは！どっちにしろアイカ様の勝ちだ！ふうッ、ふうーッ！おらあッ！イけッ！ちんぽイけえッ！』



「おおおッ、んおッ、おぼおおおおお〜ッ！！」

『きゃはは！最ッ高〜！』

「おおおッ、おぼおッ！おほおおおおおんッ！ゲホッ、ゲホッ！ああ...
ッ、あ...ッ」

『カーラってば、イキ声でむせちゃった〜？きゃはは！あんた、こんな格好でイカされたことないでしょ？臭〜い精液、いっぱい撒き散らしちゃって恥ずかしくないのお？私だったら自分が情けなくて降参しちゃうけどなあ〜？』

「ゲホッ、ゲホッ！おおおッ、んおおッ！はあッ、はあッ！」

『あら、これだけイカされてもまだ動く元気があるなんてね。まったくしぶといなあ〜。あんたがまだやれるって言うても、もう結果なんて分かりきってるでしょ？やるだけムダムダ♪』

「ゲホッ、ゲホオッ！おおッ、おッ、おおッ！はぁッ、はぁッ！ゲホオッ！」

『もうヤバいんでしょ？降参しちゃいなよ。ギブアップしたら、少しぐらいは休憩を挟んであげてもいいわよ。まあ、私だって体力使っちゃったし〜』

「ま、まだ...ッ、ゲホッ、やれる...、わよおッ！ゲホオッ！」

『はぁ〜？あんたバカなの？折角優しく言ってあげたのに。後悔しても知らないわよッ！』



「いッ、いやあああああ〜ッ！！？」

『は〜い、次はこれで苛めてあげるわよ〜！さっきの担ぎ技からのこの固め技への連携、すごいっしょ？ほら、カーラがさっさとギブアップしなかったせいで、またイカされちゃうわよ。さすがに絶望しちゃったかしら？』

「う、うう...ッ！ううう...ッ」

『頭に血が上っちゃって何も考えられない？全然抵抗しなくなっちゃって。あーあ、カーラには期待してたのに面白くないなあ。まあ、それじゃあ遠慮なくイキ地獄に堕としてあげるだけッ...、ちゅるるるッ！！』

「んぼおおッ！？おッ、おお...。んおおおッ！くうッ、ウチがいつまでもあんたの好きにさせると思ったかあッ！」

『おお？！ゲホおッ！この状況でッ、私の首を絞めてくるなんて...ッ、カーラやるわね...ッ！くっ、やっぱりあんた大した女よッ！けど...ッ、負けないわよ...ッ！ちゅるッ、ちゅるるるッ！』

「おほッ、ほおおッ！んほッ、ほおッ！おおおッ！ぎ、ぎもちいい...ッ！」

『さっき私が中出ししてやった特製のドロドロの精液が無理やり吸い出されていくの、ちゅるるッ、ゾクゾクするでしょ？ちゅるるるッ、ちゅるるッ！ごくんッ、はあッ、げえ〜ッぷ♪』

「うおおッ、おッ！ほおおッ、んほおッ、おッ、おおッ！アイカ、あんた自分の精液飲むなんて正気い...ッ？！はあッ、はあッ！」

『あんたを攻め落とすためならなんでもしてやるわよ！きゃはは！おっぱいもいい弾力してるじゃない！こんな生意気なおっぱいは押し潰してやるッ！』

『お“ッ”？！おほおッ、ほおんッ！？はあッ、はあッ！乳首気持ちよくなっちゃうからあ...ッ！あひッ、ひいんッ！』



『ぢゆるるう～ッ！ぷはぁッ！さあて、メスの部分だけを同時に責められる気分はどう？支配される悦びに身体の奥がゾクゾクしちゃってるんでしょ？やっぱりあんたにはメスがお似合いね。カーラは攻められて感じる哀れなメス豚なのよ！』

「ああ…ッ、あッ！ウチがこんな女に好きなように弄ばれてるなんて…ッ！おお…ッ、もっと苛めて欲しいい…。もっとウチを惨めにしてえ…」

『ぢゆるッ、れろお～ッ！ぢゅぶぶぶッ！そうよ、あんたは私に屈服して存分に奉仕していればいいの。あんたが見下されて感じてるのが伝わってくるわ、マンコの入り口がヒクヒクしちゃって愛液をたっぷり分泌してるもの。精液ごと、ぜ～んぶ吸い出してあげる♪ぢゆるるッ、ぢゅぶうう～ッ！んッ、ごくんッ！うぷッ、げえ～ッぷ♪』

「ああ…ッ！おお…ッ、お…ッ！おほッ、おほおんッ！」

『またゲップ出ちゃったぁ♪私の生温かい息がマンコに直接当たって気持ちいいでしょ？う…、また出る…ッ、げええ～ぷッ♪』

「おほおお…ッ！お…ッ、おお…ッ！」

『どう？私の下品なゲップ！乳首を捻りながらだと、息がかかるだけのちょっとの刺激でも感じちゃうでしょ？おちんぽ一度も触られてないのにメスイキしちやいそうになっちゃうわよねえ』

「おお…ッ、め、めしゅいき…ッ、させられたいい…！これ…ッ、らめえええッ！」

『太腿もじもじさせちゃって完全にメス豚じゃない。さっきまで私の首を絞めてきてたくせに私の口に汚いマンコをぐいぐい押し付けてきて…ッ！ホントにド変態ね…。いいわ、今度こそ気絶するぐらいの快楽を味わわせてあげる！そして私の性奴隷となることね！』

「おおッ、おッ、おッ、おッ！イグ…ッ、イグうう～ッ！ぎもちいいのきてるうう～ッ！おかしく…ッ、おほッ、なりゅううう～ッ！」

『おかしく…ッ、ぢゆるるるッ、なっちまえええッ！ぢゅぷぷぷッ、じゆるんッ、ずぞぞぞぞおお～ッ！』



「おほおッ！おほおおおおおおお～んッ！」

『んぶうッ？！ちゅッ、ちゅるるるるう～ッ！ちゅぶぶうッ！』

「おお…ッ、おほお…ッ！」

『ちゅるるんッ！ぷはぁッ！はぁッ、射精どころか母乳まで出してッ、そんなに私のテクが気に入ったのかしらぁッ！きゃははッ！そんなに気持ちよさそうな顔して！もっと吸い出してあげるわッ！好きなだけカーラの汁、ブチまけていいわよッ！ほらッ、ちゅるるんッ、ちゅぶぶう～ッ！』



「ああッ、あ”ああああ～ッ！メスになるう～ッ！おおッ、メスの快樂ッ、教え込まれちゃってるううう～ッ！ああッ、ああんッ！」

『そうよ、所詮あんたはこのアイカ様には敵わないのよ！せいぜいおちんぽに負け続けるだけの性奴隷に成り下がる運命ッ！さっさと自分の運命を受け入れることね！ちゅぶうッ、ちゅるるんッ！』

「おッ、おおッ！気持ちいいしかわかんない…ッ！ううう～ッ、これマジでヤバいいい～ッ！マジで墮とされちゃう…ッ、戻ってこれなく…ッ、なっちゃううう～ッ！」

『あーあ、カーラがさっさとギブアップしないからよお？ここまでするつもりはなかったのに。最初に決着はついてたじゃん。精液も母乳も自分の身体にぶっかけちゃって、これじゃあ威厳もあったもんじゃないわねえ♪』

「うう…ッ、た、確かにメスにされるのは気持ちいい…ッ、けどお…ッ！おおッ、んほおッ！でもお…ッ！」



『んおッ、おぼおおッ?!!』

「あんたとの勝負なんてどうでもいいんだけど、やっぱやられっぱなしはムカつくうッ！それにウチ、アイカみたいな勝気な女を攻めるのが結構好きなんだよねえ〜♪」

『あ、あの体勢から...ッ、脚で私の首を引き倒した...ッ?!なんて脚力なの...ッ?!う、うぶぶうッ!』

「もしかしてウチに勝ったとか思ってたあ〜？確かにさっきはちょ〜っと墮ちそうにはなったけどお、やっぱりウチには攻める方が向いてるっぽい〜！きゃはは！」

『んぼおッ、おぼおッ！か、勝手に腰動かしてんじゃ...ッ、んぶぶッ、ねえよッ！うぶぶうッ!』

「んぼッ、んぼッ、んぼおッ！ウチがアイカのくっさいちんぽフェラしてあげてるんだから、アイカもウチを気持ちよくしてよお～！ほらッ、ウチが腰動かしてあげるからさあ！」

『うぶッ、んぶッ、んぶぶッ！ゲホッ、ゲホオッ！カーラッ、速すぎ...ッ！うぐッ、待って...ッ、待...ッ！ゲホオッ！』

「おッ、おほおッ♪マンコ弄ってくれるなんてえッ、んおッ、気が利くじゃなあ～い！ああんッ、あひい...ッ！」

『んぼッ、んぼおッ！私だって負けてられないんだからあ...ッ！このままあんただけイかせてギブアップさせてやるうッ！ほらッ、イケッ、イケえッ！ツんぐッ、んぼおッ、おほおッ？！ゲホッ、ゲホッ！』



「まったく、人のちんぽ啜えながら咳き込むなんて失礼ねえ～。もっとちゃんとバキュームしてよお！おほッ、おほおんッ！」

『く、くう～ッ！調子に乗りやがってえ～ッ！望むところよッ！どっちが先にイかせられるかフェラテク勝負ッ！んぼッ、んぼおッ！んぼッ、ちゅるるるうう～ッ！』

「んぼッ、んぼおッ、んぼッ、んぼッ、んぼおッ！おちんぽッ、んぼッ、美味しい…ッ！おおッ、おおんッ、ちゅぽんッ、ちゅぽんッ、イケッ！イケえッ！」

『おほおッ、んほおおッ！んぼおッ、んぼッ、んぼッ！イ、イク…ッ、イグう…ッ！ちゅぽんッ、ちゅぽおッ！おほッ、おほおおッ！』



「んぶッ？！んぶうううう～ッ！」

『おぼおッ？！んぼおおおお～ッ！』

「おほおッ、ほおんッ、ちゅっぽッ、ちゅぽんッ！んぶッ、んぶうッ、へーえきに(精液に)、おぼれふう(溺れるう)…ッ！」

『く、くう...ッ！んぶぶ...ッ！ちゅっぽんッ！く、くはい(臭い)...ッ、んぶう...ッ、んぐうう～ッ！』

「ん、んぶぶッ、ごっくんッ♪ぷはあ～ッ！う、うぷッ、げええ～ッ♪はあッ、はあ～ッ！」

『んッ、ごくんッ！ぷはあッ！はあッ、はあッ！う...ッ、げぷうッ』

「はあ～、最高だったよねえ～？でもまだまだ終わらないわよお～ッ♪」



『こ、今度は何...ッ？！』

「さっきいったし、おちんぽも精液まみれだしそのまま入るわよね～ッ♪ん、んんッ、んぐ～ッ！」

『おぼおッ？！あ、あんたバカじゃないのおッ？！アナルは濡らしてもないのに入るわけ...ッ、んほおおおお～ッ？！』

「アイカってばアナルでも感じちゃうんだあ～！変態～♪」

『ちょっ、耳元でそんなこと言うなあッ！んおッ、おほおおッ！先っぽ...ッ、無理やりナカに来てるうう...ッ！嫌だ...ッ、抜いてえッ！抜いてええッ！』

「だ〜め♪もっと脚広げて〜、もっと力抜いてえ〜！んぐぐッ、もう少し...ッ！」

『んぽおおおッ？！も、もうムリい...。うう...ッ、やだあ...ッ！んぐぐッ、おほおお〜ッ！』



「あーあ、こんなに濡らしちゃって〜！そんなにおちんぽでアナル穿られるの気持ちいいのお？ついさっきまで野太い声出して嫌がってたくせにい〜？」

『こ、これは...ッ、違うッ！う、うう...ッ！』

「何が違うのお〜？ホントはマンコもおちんぽも触って欲しくてたまらないんでしょ〜？ピクピクしてるの、ここからでも、よお〜く見えるわ

よお～♪でもお、あんたはウチのおちんぽでアナル弄られるだけで虚しくイカされちゃうの。きゃはは！」

『こ、この私がアナルだけでイクわけないでしょお...ッ！？やれるもんならやってみなさいよおッ！』

「ふう～ん、相変わらず強気ねえ～！それなら遠慮なくッ！おおッ、おッ、おお～ッ！」

『んひいい～ッ！？この体位で腰を動かせるなんて...ッ！くうッ、だめえッ、おッ、おおッ、おほおッ！』

「おッ、おおッ、狭くて気持ちいいわよお～ッ！ほらッ、まだまだ速くするわよッ！おッ、おッ、おッ、おッ、おッ！」

『あへえッ、あへッ！ら、らめえ...っ、これ、ま、負ける...っ！おッ、おッ、おッ、イカされるうう...っ！』

「ウチも出ちゃうかもお～ッ！ラストスパートッ、高速ピストン行きまあ～すッ！ふんッ、ふんッ、ふんッ！おッ、おおッ、おッ！おほおッ！」

『らめえええ～っ！出る出る出るうう～ッ！精子上って来たあッ、おちんぽびゅーびゅー来ちゃううう～ッ！もうらめえええ～ッ！』

「イケッ、イっちゃえッ！アナルセックスでイケええ～ッ！おッ、おッ、おおッ、おッ、おほおおッ！」



『んほおおおおおおお～ッ！！』

「あへえッ、あああああああ～ッんッ！」

『ああ...ッ、あ...ッ！』

「ふうーッ、ふうーッ！びゆるびゆる出てるう...ッ！アイカの尻穴気持ちよすぎてヤバいい～ッ！はあッ！また勃起してきちゃったあ～」

『おほお...ッ、ほおッ！これ以上は...ッ、お、おかしく...なる...うッ！や、休ませて...っ、お願い...っ』

「はあ～？休ませるわけないじゃん！ほら、まだまだやるわよお～ッ♪」

『こ、こいつバケモノかよ...おっ』



「よいしょとお～！」

『ん、んぽおおおッ?!』

「ウチは後ろに倒れ込んだだけなんだけど、おちんぽ勢いよく抜けたわねえ～！アイカったらたったこれだけの刺激で精液噴き出しちゃうなんてエッチい～♪アイカのおちんぽも跳ね回ってるしい！」

『んぽお...ッ、おほ...ッ』

「あれえ～？もう放心しちゃってる？ウチはまだまだやり足りないんだけどなあ～！」



『んぶうッ?!ま、まだやれるっていうの...ッ?!も、もう...やめて...えっ』

「情けない声出しちゃって、そんなにアナルセックス効いたあ?それとも既に体力の限界が来てたのかなあ?ほらほら、ガバガバマンコにうちのおちんぽ入ってくよお?」

『やだ...っ、もう...っ!ぎ、ギブアップ...ッ、ギブアップだからあ...』

「ええ～、もう先っぽ入れちゃったから止められないよお?」



『も、もう...やめてくdashyai...っ。うう...ッ、おッ、おおッ！うっ、もうイきたくない...ッ！』

「もうちょっと我慢してよお～！ほらッ、無理やり感じさせられるのってどう？自分が負けだって教え込まれてるみたいで屈辱でしょ～？そうよ、アイカの負けなのよお～！きゃはは！」

『ごめんなしやいつ、ごめんなしやいいっ！うう...ッ、もうらめえ...っ！イきたくない...っ』

「ちょっと可哀想だけどもう止められないわよお～！きゃはは！この体勢だとマンコの深いところまでおちんぽ来てるでしょ～？イイところにガチガチのおちんぽ当たりまくってヤバい？ほらッ、ココが気持ちいいんでしょッ？！」

『おっ、おほっ、おっ、おっ！も、もうらめえっ！む、むりい...っ』

「ムリじゃなあい！もっと気持ちいいコトしよおッ！おほッ、おッ！もっとマンコ締めてッ！おおッ、おほおッ！」

『むりむりむりい...っ。おっ、おおっ、あっ、ああっ、ああああっ。むりい...っ』



「腰ッ、おッ、更にキツくうッ、絞めてあげるからぁッ、おッ、イっちゃえッ！奥に深いピストンッ、おッ、何度もしてあげるからぁッ、おほッ！」

『ぁッ！あっ、あっ、あぁっ、あっ、あっ、あぁッ！』

「おッ、おッ、おぉッ！イグッ、出るうッ！アイカのナカにいッ、おッ、種付けえッ！イっちゃううう～ッ！」



『んぼおおッ？！んぼおおおおおおお～ッ！！』

「おほッ、おほおおおおお～ッ！」

『おお...、お...、おおっ』

「はぁッ、はぁッ！ぎもちいい～ッ！」

『お...っ、おお...』

「あれえ？アイカったら、折角アナルにウチの精液出してあげたのに撒き散らしちゃってえ！勿体なあい～！」

『お...っ』



「無視しないでよお～。ん？あれ、もしかしてアイカったら完全にダウンしちゃったあ～？ウチはまだ遊び足りないんだけどなあ～。まあいいか！勝手に遊ばせてもらお～っと！」

『ん、んん...』

「失礼しまあ～す♪気絶しちゃったアイカの顔の上にマンコを乗せてえ～、勃起しちゃったおちんぽはパイズリしてもらおうかなあ～！んしょッ！おッ、おッ、おおッ！これ結構いいじゃん！きやはは！」

『ん...』

「まだ起きないみたいだし、腰動かしちゃえ～ッ！んほッ、おほッ、おッ、おッ、おお～ッ！これマジで奴隷みたいで最高～♪おちんぽまた出そうになってきちゃう～！」

『んう...』

「おッ、おッ、おッ！これ出るッ、すぐ出るうッ！アイカの鼻の先がマンコのナカに当たってえ...ッ、んほおッ！イグッ、イグウッ！これもうイグうう～ッ！おッ、おッ、おお～ッ！」



「ああッ、あああああああ～ッんッ！」

『ん...』

「ああ...ッ、射精気持ちいい...ッ！はあッ、はあッ！ふんッ！マンコに溜まっていたアイカのザー汁も噴射あ♪ほおら、お返し食らえ～ッ！自分の出した精液に溺れちゃえッ！きゃはは！すごい出てるう～ッ！ウチ、人の顔面に精液おしっこしちゃってる～♪」

『ん...』

「まだ起きないのかあ～。じゃあ起きるまでえ、この身体好きに使わせてもらお～っと！きゃはは！」









































































